

# 業務速報

## 2013年度協約・協定改訂第1回団体交渉

本部は本日、2013年度協約・協定改訂に向け、第1回団体交渉を開催しました。J R 東海労の要求趣旨、会社の交渉に臨む基本姿勢は以下の通りです。

第2回団体交渉は8月28日です。会社が現時点での回答を行う予定です。

### J R 東海労要求趣旨

J R 東海の平成24年度連結決算は、純利益が前年同期比50.6%増の1,999億円を計上し、過去最高を更新した。一昨年の東日本大震災の影響を乗り越え、ここまで利益を上げてきたのは社員の努力によることは言うまでもない。会社は社員の努力に対してしっかりと応えるべきである。

さて、今年度の基本協約改訂交渉を行うにあたり J R 東海労は、①労使関係、基本協約・協定の改善 ②出向に関する協定の改善 ③労務管理の是正 ④人事賃金制度の改善 ⑤一方的休日出勤解消、年休完全取得 ⑥運輸系統の社員運用等の改善 ⑦出向先の労働条件改善 ⑧60歳定年延長 ⑨専任社員の雇用に関する協約の改善 ⑩安全確立 ⑪職場諸要求を柱に、組合員の切実な要求を掲げ、基本協約・協定の改訂に向けた交渉に臨む決意である。

1月17日、米原駅に所属する若き社員が自殺するという、痛ましい事態が発生した。この背景には、会社が出勤時間の1時間前に出勤することを懲罰するという労務管理に問題があったことは言うまでもない。職場では管理者による常軌を逸した社員管理が行われ、これによってメンタルヘルス不調を訴える社員が急増している。J R 東海労はこうした現実を看過することはできない。会社は真摯に反省し、労務管理を直ちに改めるべきである。

職場では、未だに一方的な休日出勤が解消していない。会社は「ゼロにすることは困難である」と発言する等、解消に向けた姿勢は全く見えてこない。また、年休が取得できずに失効する社員も続出している。これらの問題は会社が適正な要員を配置していないことに他ならない。

国は4月から改正「高齢者雇用安定法」を施行した。これにより「専任社員の雇用に関する協約」を締結したが、会社は「専任V」なる区分を新設し、さらには「経過措置」を導入するなど、希望者全員が65歳まで差別なく安心して働ける協約とはいえない状況である。

この他にも職場には問題が山積している。この間、労働条件、職場環境が改善されないことに J R 東海労組合員のみならず、多くの社員が不満を感じている。将来にわたって安全で安心して働ける労働条件と職場環境を整えるために、会社は今こそ真摯に労働組合の意見を聞き、改善に向けた議論をすべきである。そのために2013年度基本協約・協定改訂について申し入れるので、誠意ある回答を行うこと。

## 協約改訂交渉に臨む会社の基本姿勢

今年度の協約改訂交渉を開始するにあたり、交渉に臨む会社側の基本姿勢について述べておきたいと思います。

まず、当社を取り巻く経済状況・景気動向ですが、内閣府の8月の月例経済報告によりますと、景気は、着実に持ち直しており、自律的回復に向けた動きもみられるとされています。しかし、先行きについては、輸出が持ち直し、各種政策の効果が発現するなかで、企業収益の改善が家計所得や投資の増加につながり、景気回復へ向かうことが期待される一方で、海外景気の下振れが引き続き我が国の景気を下押しするリスクとなっているとされています。以上のような状況に加え、新興国の経済成長のテンポ鈍化、不透明感を増す足下の円相場や株式市場の動向、これまでにない量的・質的金融緩和による経済・物価への影響など、依然不安定な要素が数多く存在していることも事実であることから、今後の見通しとしては、なお楽観を許さない状況であると考えています。

このような環境における当社の経営状況についてですが、平成25年度第1四半期の輸送状況は、観光をはじめご利用が順調に推移したことから、新幹線の輸送人キロが前年同期比で103.1%、在来線の輸送人キロが前年同期比で100.6%となりました。また、第1四半期における単体の運輸収入は、前年同期比3.0%増(84億円増)の2,924億円となりました。

7月以降の輸送量も前年を上回っており、大きな事故や災害もなく順調に推移していますが、引き続き安全安定輸送の確保を最優先に、より質の高いサービスの提供を継続することを大前提として、業務全般にわたる低コスト化のより一層の徹底や効率的な業務運営体制の構築等に不断に取り組むことを通じて、経営体力を強化していく必要があることに変わりはありません。今後とも、こうした取り組みを継続的に行い、中央新幹線計画や名古屋駅新ビル計画をはじめとする次世代へ向けた経営課題に対処していくべきであると考えています。

以上のような現状認識を踏まえ、今次交渉におきましても、既に極めて高い水準に到達している当社の労働条件について、その水準に世間レベルから乖離している点はないか、見直すべき点はないかということについて常に検証していくことが重要であると考えています。

以上の認識のもと、今次交渉において真摯に議論を行って参りたいと考えておりますのでよろしくお願いします。

以 上